

国語 第5学年 ひみつの言葉を引き出そう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。学習の記録は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモである。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕A 話すこと・聞くこと(1)エ	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

単元の目標

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）
話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。（A(1)エ）
相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。（A(1)エ）	①相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全1時間（話・聞1）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。教師が設定した身近な話題で、聞き手が返答に関わる質問をする。目的に近付いた質問と話題が外れた質問を振り返り、聞き方の違いを説明する。聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）

本時の案

本時の目標：話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(A(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」 【めあて】相手の返答から関連する質問を考え、必要な言葉を聞き出す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」 教師が設定した身近な話題で、聞き手が返答に関わる質問をする。目的に近付いた質問と話題が外れた質問を振り返り、聞き方の違いを説明する。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしたかは聞けたが場所を知りたい。 ・友達が答えたことをもう一度確かめたい。 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。 想定する難しさ：一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。 評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・聞くと初めより様子が分かった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手の答えから、次にどんな質問を考えますか」。中央は、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

一度に多く質問して返答を聞かない、話し手の内容と無関係な質問をする。この難しさには、教師の独自の短い体験話を聞き、聞いたことと知りたいことを絵や言葉で分ける。本人の家庭事情を尋ねる話題は避け、学校で共通に経験したことも選べるようにする。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを、聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

聞き取れたこと、追加で聞いたこと、返答で詳しくなったことのメモを残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」4行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

